

令和 2 年 3 月 31 日

滝沢市議会議長 日向 清一 様

滝沢市議会議員 佐藤 澄子

政務活動 (調査研究)・研修・要請陳情等) 実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第 9 条に規定する使途基準に基づき、政務活動 (調査研究)・研修・要請陳情等) を実施したので、報告します。

記

1 期日

令和元年 9 月 2 日 (月) から 令和 2 年 3 月 31 日 (火) まで

2 活動場所

① 繁殖状況の調査 滝沢市内(姥屋敷、一本木、柳沢、巢子、川前、鶉飼)

② 調査報告 ビッグルーフ滝沢 ギャラリースペース

3 参加者

たきざわ環境パートナー会議、いきもの探偵隊

市役所環境課・道路課・農林課

花平農協

4 活動内容

・滝沢市内に繁殖する特定外来生物「アレチウリ」の調査

詳しい内容は別紙報告書を参照

滝沢市内に繁殖する特定外来生物「アレチウリ」の調査報告書



提出日 令和2年3月31日

提出者 佐藤澄子

滝沢市内に繁殖する特定外来生物「アレチウリ」の調査について

《調査報告》

○調査目的

平成 30 年度より、滝沢市環境パートナー会議のいきもの探偵隊より、滝沢市内における特定外来生物「アレチウリ」の生殖情報をいただき、そのまま放置すると自然環境は基より、農林業に大きな被害を与えることが確認できた。すでに繁茂している地域もあり、その範囲が広範囲にわたり、事態は緊迫していることから、早急の生殖調査と駆除対策、また、情報発信の対応が必要と捉え、調査することとした。

○調査内容

調査項目	調査内容	期 間
生殖状況の確認	•いきもの探偵隊の調査資料「分布図」を基に生殖場所の確認 •新たな情報による生殖場所の確認 •生殖場所での聞き取り	令和元年 9 月～11 月
情報収集	•生殖について •駆除の仕方について	
いきもの探偵隊と情報共有	•生殖調査や駆除活動の内容について •今後の対応策について	
当局との情報共有	•現地確認(環境課、農林課、花平農協)	令和元年 9 月 25 日
調査報告	•調査内容を市民に報告(掲示版・報告書)	令和 2 年 1 月～3 月
一般質問	•質問内容…生殖状況を当局と共有し、令和 2 年度の対処方法を問う。	令和元年 12 月 令和 2 年 2 月

○関係する機関等

- 執行機関 市民環境部、経済産業部、都市整備部
- 執行機関以外 たきざわ環境パートナー会議所属「いきもの探偵隊」、花平農協等

○生殖状況の確認

繁殖地域と状況

- 一本木、姥屋敷、柳沢、川前、巣子、鶉飼 : 一部写真別紙 1 参照

○情報収集(アレチウリの生態など)

- 1 アレチウリ (ウリ科) 特定外来生物の解説 外来生物法
 - ・北アフリカ原産で・成長速度が非常に速いつる性の1年生植物
 - ・日当たりの良い場所に生育し、開花期は8～10月雌雄同株
 - ・1株400～500個の種子をつけるが、多いものでは25,000個の種子をつけた報告もある。
 - ・種子は休眠性がありシードバンクされる。
 - ・風、雨、動物、人間により伝播される。
 - ・1952年に清水港で確認され、輸入大豆に種子が混入し大豆栽培を中心に拡大。
 - ・長野県千曲川での調査で、アレチウリが大量にある場所では他の植物が生育しないことが示された。

- 2 特定外来生物アレチウリの進入・分布拡大のメカニズム 農研機構
 - ・アレチウリは全国の飼料畑に一次侵入し集団を形成し、水流で分布拡大している。
 - ・畜産飼料畑で甚大な被害をもたらしているだけでなく、河川敷などに侵入し、固有の生態系を攪乱。
 - ・最近の水田輪作地帯の大豆畑への侵入も確認され、一度水田輪作地帯の一部に進入すると数年でその地域に蔓延する。
 - ・アレチウリは輸入飼料を解した複数回の進入により各地の飼料畑に一次侵入集団を形成し、そこから水の流れて分布拡大している。

- 3 特定外来生物アレチウリの宮城県の水田地帯における分布実態 宮城県古川農業試験場
 - ・大豆作への侵入と甚大な雑草害も及ぼす特定外来生物アレチウリは宮城県の水田地帯を流れる河川や広域水路に沿って広範囲に分布しており、農道法面や農業水利施設を介して拡大している可能性が高い。
 - ・圃場によっては収穫が皆無となる甚大な被害を及ぼしている。
 - ・アレチウリが一度圃場内に蔓延してしまうと有効な防除手段がなく、大豆作付けが困難になる。
 - ・今後農業水利施設を介して分布拡大が懸念されている。
 - ・前作からアレチウリが目立ち始めた大豆圃場の事例では、慣行の除草剤と手取りによる防除を行っていても、9月上旬には大豆を覆いつくすほどにアレチウリが繁茂した。
 - ・農道や用水路周辺にアレチウリを見かけたら、拡大する前に抜き取り防除する必要がある。

4 アレチウリとは

長野県

特定外来生物「アレチウリ」から生態系を守る活動

保黒時男 四日市大学環境情報学部

特定外来生物。また、その場所の生物を死滅させ本来の環境を脅かすので「侵略的外来種」

- ①成長が早く、短期間で多くの種子ができる。
- ②1株に数百から数千個の種子ができ、繁殖が旺盛
- ③種子は遅延発芽や休眠発芽のため一斉駆除が難しい。
- ④ツルで延びるため他の植物に覆いかぶさりそれらの成長を阻害する
- ⑤畑などの耕作地にも侵入し、作物に被害を与える

H18年より社会福祉協議会及び自治会連合会と連携して駆除活動

- ・四日市市内でも猛烈な勢いで繁殖しているが、知られていない状況のため野放し。
- ・発芽時期の7月初旬に地域住民300～400名の参加を得て引き抜き作業
- ・5年目でようやくアレチウリの減少とクサソテツ・コウヤワラビなどの希少生物の繁殖などの成果。
- ・スズメバチを呼び効果があるので駆除する際には注意。

5 多治見市 H28年度アレチウリ調査結果について

- ・市内の広範囲に分布しており、市民のみなさんの協力が必要
- ・毎年の市内一斉清掃や草刈作業にあわせて駆除

6 最新版雑草野草の暮らしがわかる図鑑

- ・猛烈な勢いですべてを覆いつくしてしまう
- ・アレチウリの発芽スタイルは大きな双葉ですぐわかる。

7 特定外来生物「アレチウリ」を駆除しましょう

長野県魅力発信ブログ

- ・6月27日アレチウリ駆除指導者研修会
H21年度から開催し 13,796名の参加
- ・長野県の取り組み
 - 1 アレチウリ駆除全権統一行動日
 - 2 駆除研修会の実施
 - 3 職員参加による駆除活動
 - 4 アレチウリ等外来植物対策事業（緊急雇用創出事業）の実施

- 5 長野県政出前講座
- 6 職員参加による駆除活動

8 夏の多雨とアレチウリの繁茂

エスペックミック株式会社

- ・洪水時に種子が流され漂着した場所で生育するので対策場所が絞りきれない。
- ・1ヶ月のシュート伸張量が25mというデータがあり初夏の1株を見落とすと秋には大株に育つ
- ・気がついたときには四方にシュートが伸び、容易に引き抜けなくなっている。
- ・雨が少ない夏は成長が鈍いが、雨が多い夏では成長速度が速く大株が形成される。

9 大豆の生育を脅かす強害雑草「アレチウリ」とは～アレチウリ調査を始めました

らぼれたー岩手県北農業試験所作物研究室 小野直毅

- ・アレチウリは特定外来生物に指定されている強害雑草で一度発生すると大豆などの収量に大きく影響し、最終的にはその重みで大豆などを押しつぶす。
- ・岩手県北地域で発生しており、一部の大豆圃場に侵入し始めている。
- ・2週に1回ひたすら抜き取り調査を数えた。
- ・多いときは797本/m²
- ・除草剤退治はモグラたたき？

10 アレチウリ

駒ヶ根市役所

- ・刃は茎から三枚の葉が出ているが、アレチウリは1枚の葉
- ・1m²に2000個の種子。5月から芽が出始めるので抜き取り開始。

11 農文協の主張

- ・輸入飼料に混入して入ってきて、家畜の糞尿に混ざり、未熟堆肥の利用が拡散につながる。発酵温度が60度以上だと雑草の種子はほとんど死滅する。
- ・阿武隈水系の調査で水流により田んぼに入った種子は発芽しないが死滅せず、畑に転用になった時に一斉に発芽し被害が出る。
- ・アレチウリは農薬に強い。アメリカではもっと強い農薬をつかっているた

め除草剤耐性がついている。

- ・キュウリに似ているので、地這えキュウリと間違えて残した話もある。

1.2 アレチウリ 生息域拡大富士山麓、景観一変 生態系を破壊

H26, 8, 3 産経ニュース

- ・山梨県側では富士河口湖町や NPO 法人「富士山クラブ」権富士山科学研究所などと協力し H25 年から駆除に取り組んでいるが、生息域を縮小するには至っておらず、関係者は頭を悩ませている
- ・生態系を破壊し景観を一変させるだけではなく、大豆やとうもろこし畑に繁茂し収穫不能になる。
- ・繁殖力が旺盛で駆除が追いつかず、生息域が広がっている。町民から畑に侵食しているから駆除してほしいと要望が寄せられているが、町の予算では対策費は割けないと町の担当者の話。

1.3 アレチウリ

七尾市

駆除の方法

- ・夏に繁茂したあと、秋にたくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。
- ・また、発芽期間の春～秋に複数回駆除を行うのが効果的です。
- ・刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。
(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し袋に入れて枯死させてください。)
- ・アレチウリは秋には枯れてしまいましたが、生えていた場所の土にはたくさんの種子が含まれています。
- ・土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

1.4 対策を優先すべき主な外来植物 10 種の生態的特長と対策

国土交通省

- ・輸入大豆の中に混じって侵入した。
- ・茎や葉には細かいとげがあるため、革手袋やマスク。

1 5 河川高水敷における特定外来生物は・・・

- ・アレチウリが最も多い。河川の増水により種子が拡散され、水位が下がった時に発芽し短時間で成長する。（専門的でした……）

1 6 外来種雑草の農業被害と分布・拡散パターン

日本植物防疫協会

- ・春から秋まで出芽が続き、つる性で作物に絡みついて生長することである。
- ・（1本のつるが5～8m）、アレチウリがまん延すると、長大型作物である飼料用トウモロコシであっても圃場全体がなぎ倒されるなど壊滅的な被害が生じる
- ・ダイズの場合、収穫期がアレチウリの結実期以降になるため、いったん侵入すると1、2年でまん延に至るケースが見られる。
- ・アレチウリは、輸入飼料を介して日本各地に侵入した
- ・アレチウリは千曲川、信濃川、多摩川、阿武隈川、北上川など大きな河川の河川敷で拡大。黒川俊二（独）農研機構 中央農業総合研究センター

1 7 久慈川推計における外来植物対策検討

リバーフロント研究会

- ・アレチウリは、実施回数を変えた「除草」「抜き取り」の組合せ等による施工の結果から、「3回草刈除草＋3回抜き取り」の実施が効果的であった。

1 8 アレチウリ

農業水産技術会議・農林水産省

- ・飼料用トウモロコシ畑では1m²あたり1.5-2本程度で80%の減収、2.8-5本で90-98%の減収。大豆畑では壊滅的な被害。
- ・少数でも見つけたらすぐに防除する
- ・大豆畑では初期の侵入時期に手取りする。2週間ごとの手取りが良い。（農薬は効果が薄い……耐性ができている）
- ・河川敷のそばの畑は要注意。
- ・稲刈り後に発生したアレチウリが種子をつくるまで生育した事例があることから秋に残草して個体徹底防除すること

19 大豆の難防除雑草の対策について

福島県

- 警戒と少ないうちの手取り
- 水田に入ったらすぐに蔓延します。
- 監視の目

20 資料提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・いきもの探偵隊

アレチウリ学習会資料

平成 30 年 6 月 10 日



アレチウリの花と実

クズの上にはい上がるアレチウリ (御所湖)

1 去年の分布調査結果報告

アレチウリは木賊川遊水地、鶉飼小学校周辺、分れや滝沢駅裏で侵入が確認された。四十四田ダムの湖底、岩姫橋周辺で繁茂している。

○今年の調査から

- 1) 今年の 5 月の木賊川遊水地で 60 本前後のアレチウリが駆除されており、去年数回起きている氾濫で種が上流から運ばれてきたものと思われる。
→ 木賊川上流（岩手牧場西側、柳沢）が注意！
- 2) 四十四田ダムの湖底からダムサイトのアレチウリが上陸して道路の反対側の松園墓地の法面に広がっていること、御所ダムサイトでも広い範囲で発見された。
- 3) 巢子地区、平蔵沢の堤で確認されている。（調査員に電話で聞き取り）

2 アレチウリがなぜ特定外来生物に指定されているか

特定外来生物。その場所の生物を死滅させ本来の環境を脅かすので「侵略的外来種」

- 1) 成長が早く、短期間で多くの種子ができる。
- 2) 1 株に数百から数千個の種子ができ、繁殖が旺盛
- 3) 種子は遅延発芽や休眠発芽のため一斉駆除が難しい。

4) ツルで延びるため他の植物に覆いかぶさりそれらの成長を阻害する

5) 畑などの耕作地にも侵入し、作物に被害を与える

- ・ 畜産飼料畑で甚大な被害をもたらしているだけでなく、河川敷などに侵入し、固有の生態系を攪乱。
- ・ 最近では水田輪作地帯の大豆畑への侵入も確認され、一度進入すると数年でその地域に蔓延する。
- ・ 対策は少ないうちに手で完全に抜き取る、種を作らせない（1年草）
- ・ 地に入ったらすぐに蔓延。常に監視の目

3 アレチウリを見分ける方法の学習

アレチウリとクズ、

ヤマガラシの見分け方



クズ と アレチウリ(中央)



ヤマガラシ

○当局との情報共有

- ◆目的 アレチウリの繁殖状況と今後の駆除のあり方について意識啓発を行うために、市担当課と繁茂の激しい姥屋敷地区の花平農協と現地確認と駆除に苦慮している酪農家の声の聞き取りを行う。
- ◆期 日 令和元年9月25日(水)13:00~15:00
- ◆参加者 環境課2名、農林課2名、花平農協1名、たきざわ環境パートナー会議会長と副会長、いきもの探偵隊員1名
- ◆場 所 姥屋敷周辺
- ◆情報共有のまとめ
 - ・アレチウリの繁殖場所
花平農協周辺、高瀬牧場周辺、岩清水公民館からの牧草地周辺と取り巻く道路の路肩
 - ・発生源…外国から購入した飼料への混入と思われる
 - ・発生時期…繁殖の目立った時期は5年ぐらい前からで正確な時期はわからない。
 - ・花平農協においては、アレチウリの被害状況を以前より確認しており、駆除については各酪農家にて行っているとのこと。繁茂状態が年々、拡大していることから駆除対策の必要性を感じている。
 - ・酪農家の声…駆除は年数回行っているが繁殖力が強く追い付かない状態である。
デントコーン畑につるが伸びると刈り取りが難しく、飼料に混入し餌としての価値が無くなる。牧草地については、種についたとげや臭い等で牛が食べないという状態にもなっている。一部、飼料を購入することもある。除草剤散布も試みたが思ったより効果が見られなかった。駆除作業は大変で追いつかないのが現状である。
 - ・姥屋敷周辺に繁茂が拡大している要因
牧草の刈り取りなどを共同で行っていることにより、トラクターなどについた種が道路や他牧草地に広がったためと思われる。
 - ・環境課、農林課…被害の状況が確認できたので、今後、担当課で情報共有し、今後の対応を検討していきたい。

○市民への情報発信

①情報発信の必要性

繁殖地の確認の際、市民に聞き取りを行う中で、「アレチウリ」に対しての認識が薄いことから、繁殖範囲が拡大していることがわかった。アレチウリの生態や駆除の必要性、やり方等が広く伝わることで、今後の駆除活動の成果に繋がると捉え、アレチウリの生態や滝沢市内の繁殖状況、駆除の仕方などについて、この調査によって知り得た情報を写真を中心とした掲示を行い、市民に広く伝えることとする。

また、庁内の職員も、アレチウリの認知度が薄いことから、職員対象の勉強会の提案や2019年12月と2020年2月の一般質問において繁殖状況の写真紹介などを行い、今後の駆除の方向性を確認する。

②情報発信の内容(別紙2参照)

回数	場所	発信期間
1回目	ビッグルーフ滝沢 ギャラリースペース	令和2年1月19日～24日
2回目	ビッグルーフ滝沢 ふれあい広場	令和2年3月1日 新型コロナウイルスの影響により中止
3回目	ビッグルーフ滝沢 ギャラリースペース	令和2年3月25日～31日

③情報発信の成果

ビッグルーフ滝沢のギャラリースペースを利用して、写真展示を中心に行ったことから、ビッグルーフ滝沢の利用者を始め、バスの乗車待ちの方等多くの方が足を止めてくれた。

写真を見ながら、「散歩中や家の近くで見た」「実際、駆除に困っている」「駆除の仕方がわからない」など新たな発生場所の確認や、駆除の仕方を理解してもらうことができた。

情報発信は、何度も行うことでたくさんの方に伝わる効果があるため3回を計画したが理解者を増やしていくことが大切なことから、発芽時期のタイミングに合わせた展示時期の設定や、駆除活動の状況なども発信するなど、今後も計画的に進めて行くことが必要である。

○考察

「アレチウリ」の調査は、いきもの探偵隊より5年前にいただいた、四十四田ダム周辺の繁殖状況の報告を確認したことから始まる。

滝沢市内の繁殖はここ数年であつという間の広がりを見せている。

市内の繁殖状況の調査や駆除を行っている、たきざわ環境パートナー会議のプロジェクトチーム「いきもの探偵隊」の活動により、詳しい被害情報も確認され、今後の即急の対応が必要と感じ、いきもの探偵隊の指導をいただき、調査を開始した。

繁殖状況の調査により、アレチウリの進出はかなり前から始まっており、現在では岩手山の麓から市役所周辺まで広がっている。繁殖場所は、市道の道路わき、酪農家の牧草地や堆肥置き場、牧草地を横切る農道、川沿いの土手、空き家の敷地、畑の脇など、至る所に広がっている。

繁殖が広がる要因としては、滝沢市の繁殖分布図を見ると、川に落ちた種が下流に流されること、道路に落ちた種が車両タイヤについて広範囲に運ばれること、国外飼料や種にアレチウリの種が混入していることなどが挙げられる。

アレチウリの被害は、日本中に広がっており、我が滝沢市だけの問題ではない事も分かり、それぞれの地域で出来る事から進めて行くことが必要であると感じた。

市は、令和2年度はアリチウリの被害状況をさらに確認するとともに市民への周知も進めたいと考えていることから「たきざわ環境パートナー会議」の積極的な協力を強みとして、環境課・道路課・農林課等の連携を大切にしたい展開を望みたい。

また、駆除作業を進めるにあたっては、広範囲であり、長期的な活動となることから市民のボランティアの協力も必要である。

最後に、滝沢市のイメージは「緑いっぱいの町」という声が多いが、岩手山を背景に写真を撮ろうとすると、山の手前にアレチウリが覆いかぶさった木やもう一つの特定外来生物のオオハングンソウの黄色い花の揺れている画像が現れる。この光景は緑多い町滝沢とは言い難いものである。今回の調査を基に、令和2年度も調査と周知、駆除作業をたきざわ環境パートナー会議の指導をいただきながら継続して進めていくこととする。

繁殖地域

一本木地区

川前地区

柳沢地区



姥屋敷地区



巣子地区



鵜飼地区



ビッグルーフ滝沢周辺

